

# 介護老人保健施設壱岐（壱岐市）

## 事業所での課題認識

### ■導入の目的と導入前の状況

介護助手に焦点をあて、間接業務の分担を行えるようにすることで、介護職員の負担を減らすことを目的としました。介護老人保健施設壱岐ではすでに多様な働き方の導入部にあたる「施設内で実施されている業務の書き出し」が行われていました。多様な働き方の導入を目指して、そうした情報の活用が求められていました。

### ■プロジェクトを進める上での課題

業務内容の書き出しは10分単位で細かく行われていましたが、「その中でどの業務を介護助手に担ってほしいのかの明確化」や「忙しい時間帯の特定」がなされていませんでした。

## 実施内容・導入効果

まず、間接業務内容を1時間ごとにまとめ、現場のリーダー目線で「優先して任せたい業務内容」の分布状況を見える化しました。それらを早朝勤務、お昼勤務、午後勤務の3パターンに整理し（下表）、それぞれの時間帯で、担い手を確保できた場合に期待できる効果（例えば、午後のレクリエーションに時間を割ける等）まで、言語化しました。こうした勤務パターンをもとに、求職者の希望に合わせて、各時間帯を組み合わせることで、柔軟な働き方を希望する求職者の確保を目指した『柔軟な求人づくり』を行うことができました。

### ■モデル事業実施内容

- ①介護助手にお願いできると助かる業務内容と、時間帯の特定
- ②勤務パターンの整理とチラシの作成

早朝勤務 7時～10時台	お昼勤務 10時～13時台	午後勤務 14時～17時台
7時＝食事準備	11時～12時＝食事準備	14-15時＝環境整備・おやつ準備
8時＝食事準備と入浴準備	13時＝片付け・洗濯	16-17時＝環境整備・食事準備
9時＝片付け と入浴介助	・入浴介助、昼食に追われる時間帯	・ケアカンファレンスや、レクリエーション等にできれば時間を割きたい
・入浴準備、朝食に追われる時間	・この時間にしないといけない間接業務が多い	し、夕方から夕食準備が始まる
・8時後半くらいから入浴介助開始		

### ■施設担当者の声

- ・介護助手に任せたい業務を現場スタッフに聞いてみると多くは同じ内容で、共通の感覚を持っていることを改めて確認できました。
- ・時間帯ごとに間接業務をまとめることで、ライフスタイルに合わせられる求人づくりの検討に活かすことができました。

### ■モデル施設の概要

- 介護老人保健施設
- 職員数 79名
- 利用者数 81.7名
- 同施設において訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション、短期入所療養介護、居宅介護支援など、訪問・通所の介護サービスも展開